

応用撮影 第3章

記録モードを変更する	36
モード設定のしかた	記録モードを切り替える 36
連写モード	静止画を連続的に記録する 36
文字モード	文字をきれいに記録する 37
いろいろな撮影機能	38
セルフタイマー撮影	セルフタイマーを使って撮影する 38
フォーカスロック撮影	ファインダーの端に見える被写体にピントを合わせる 39
モニタリング機能撮影	モニターを見ながら撮影する 40
マクロ撮影（接写）	近距離で撮影する 42

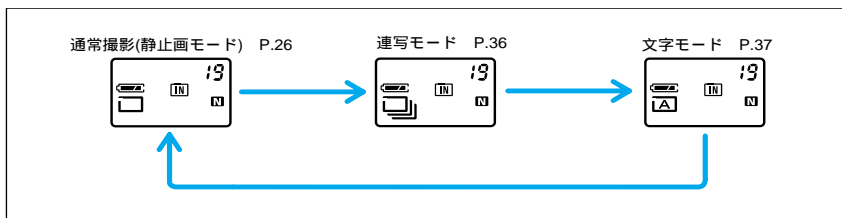
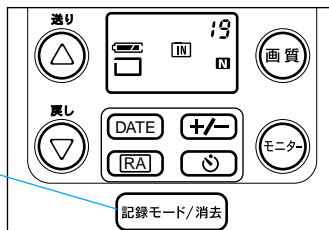
記録モードを変更する

ここでは記録モードの変更のしかたについて説明します。モードを切り替えてお使いください。

モード設定のしかた

記録モード / 消去ボタンを押して設定します。

記録モード / 消去ボタン
記録モード（静止画モード、連写モード
などのモード）を設定します。



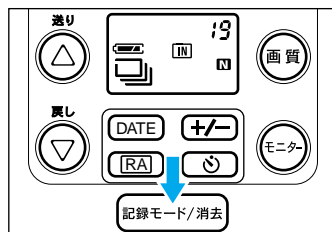
連写モード

リリースボタンを押している間、静止画を連続的に撮影できるモードです。リリースボタンを押したときの状態でフォーカスを固定し、約1秒に1コマの連続撮影を行います。シャッターチャンス逃すことなく撮影したいときに便利です。

- 重要** ・このモードで記録したファイルは、パソコン接続キット（DU-2WまたはDU-2M：別売り）の接続ケーブルを使用したファイル転送で扱うことはできません。取り扱うときは、ノートブックパソコンなどのPCカードスロット経由で行ってください。

① 記録モード / 消去ボタンを押して、情報パネルに マークを表示させます。

リリースボタンを押し続けると、約1秒ごとに1コマの連続撮影ができます。リリースボタンから指を離すと、連続撮影は停止します。



重要

・連写モードでは、リリースボタンを押したときの状態で、フォーカスや露出調整を固定します。

補足

・液晶モニターを接続して連写モードで記録するときは、電池の消費を防ぐため、モニター表示は1枚目の撮影画像のみとなります。
 ・画質モードやメモリーカードの種類によって、連写速度は異なります。

記録先	画質モード		
	Fモード	Nモード	Eモード
内蔵メモリー	約 1.5 秒/コマ	約 1.3 秒/コマ	約 0.9 秒/コマ
リコー製 メモリーカード (ATA仕様)	約 1.5 秒/コマ	約 1.4 秒/コマ	約 1.2 秒/コマ

*被写体の明るさ等によって、約0.2秒前後変化します。 < 当社測定値 >

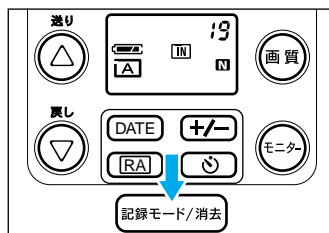
モードを解除するには

記録モード / 消去ボタンを押してモードを切り替えます。

文字モード

文字を記録するモードです。文字をきれいに記録できるように画像処理(黒い部分をはっきり黒くし、周りの色合いを緩和させる処理)を行います。

- ① 記録モード / 消去ボタンを押して、情報パネルに[A]マークを表示させます。
 リリースボタンを押して記録します。

**モードを解除するには**

記録モード / 消去ボタンを押してモードを切り替えます。

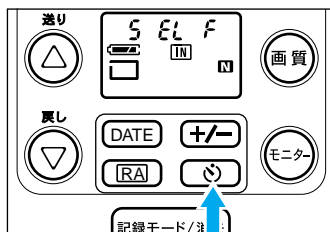
いろいろな撮影機能

このカメラは、基本的な撮影のほかにモードを設定することによっていろいろな撮影ができます。

セルフタイマー撮影

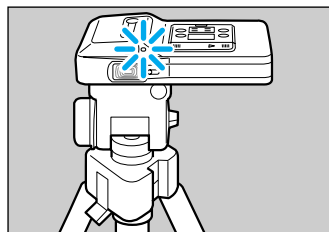
撮影者自身も入った記念撮影などを行うときにセルフタイマーを使用すると便利です。セルフタイマー撮影のときは、カメラを三脚や水平な台の上に固定してください。

- ① セルフモードボタンを押して、情報パネルに「SELF」を表示させます。



- ② 構図を決め、カメラを固定したら、レリーズボタンを押します。

カメラ正面のセルフタイマーランプが点灯し、セルフタイマーがスタートします。約10秒後にシャッターが切れます。シャッターが切れる約2秒前から、セルフタイマーランプが点滅に変わり、ブザー音が断続的に鳴ります。シャッターが切れると、モードが解除されません。



〔補足〕 ・連写モードでは、セルフタイマー撮影することはできません。

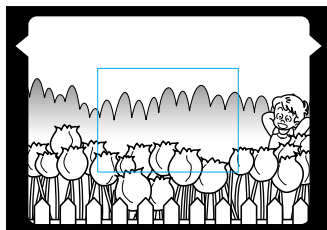
フォーカスロック撮影

ファインダーのオートフォーカス範囲に見える被写体にピントが合います。ピントを合わせたい被写体がこの条件に合わない場合、その被写体にはピントが合わずボケてしまうことがあります。写したいものに確実にピントを合わせたいときは、このモードを使用します。

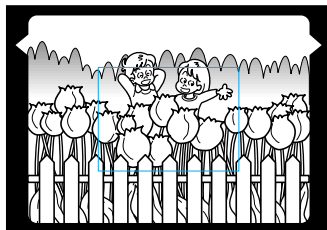
▶ 参照 ▶ ファインダーについて P.27「ファインダーの見かた」

このようなときにお使いください

ピントを合わせたい被写体が、オートフォーカス範囲にないときは、背景にピントが合い、人物はボケてしまいます。



ピントを合わせたい被写体以外のものが、オートフォーカス範囲のほとんどを占めるときは、花にピントが合い、人物はボケてしまいます。

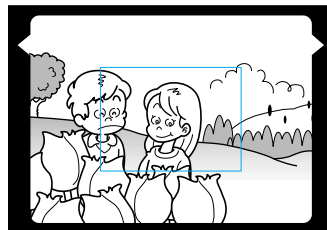


撮影のしかた

- ① ファインダーのオートフォーカス範囲を、ピントを合わせたい被写体に合わせます。

重要

・フォーカスロック撮影するときは、カメラに液晶モニターまたはテレビを接続し、ピントを確認しながら撮影してください。

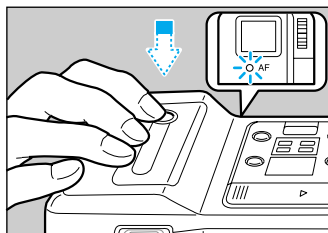


3

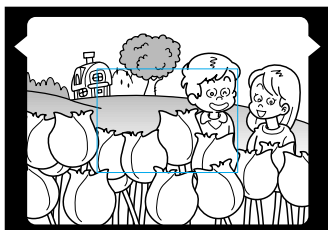
応用撮影

- ② レリーズボタンを軽く押して、緑色のオートフォーカスランプが点灯したら、指をその位置で止めます。

この時点で、ピントが固定されます。



- ③ 指を止めたままカメラを動かして構図を決め、レリーズボタンを静かに押しきります。



モニタリング機能撮影

カメラに取り込める映像を、モニターを見て確認しながら撮影することができます。操作の前に、液晶モニターまたはテレビをカメラに接続してからお使いください。

補足 ・この機能が働いているときは、「記録先のドライブ指定」「日付・時刻表示」の切り替えはできません。あらかじめ設定してください。

- ① カメラに液晶モニターまたはテレビが接続されていることを確認します。

参照 液晶モニター P.45「液晶モニターを接続する」、テレビ P.44「テレビに接続する」

- ② カメラのメインスイッチを [記録] にスライドします。

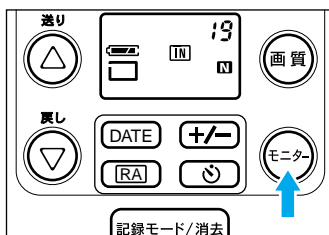
- ③ カメラにテレビが接続されているときは、テレビの電源を入れます。

- ④ カメラのモニターボタンを押します。

モニターにカメラからの映像が表示され、モニタリングできます。

この時点で、ピントと露出が固定されます。

- ⑤ 構図を決めます。

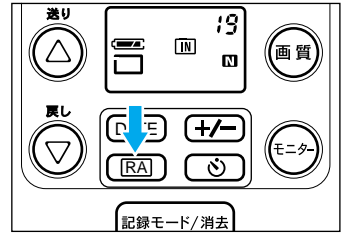


⑥ ピントや露出を再調整するときは、RA ボタンを押します。

⑦ リリースボタンを押して記録します。

設定を解除するには

もう一度モニターボタンを押します。



重要

- ・モニタリング機能中に露出補正を行った場合、画面に露出補正值が表示されます。モニタリング中の画面も露出補正に対応しています。(画面の明るさが変わります)
- ・露出補正值は±1.5EVまで設定できますが、モニタリング機能で表示される画面は、+1.5EV ~ -0.6EVの範囲に限定されます。
- ・被写体が暗い場合、+補正側ではモニタリング表示の画面の明るさが追従できないこともあります。記録時には設定した露出補正值で反映されます。

参照

露出補正 P.32「露出補正について」

コラム

長時間ご使用になる場合

カメラに電源を入れた状態で、約5分以上カメラの操作(ボタンやレバーの操作)をせずにモニタリングしていると、「オートパワーオフ」が働き、モニタリング機能が解除されます。撮影するまでに時間がかかる場合は、オートパワーオフが働かないように設定してください。また、長時間使用すると電池が切れることがありますので、予備の電池を用意してください。(家庭用コンセントから電源を供給するときは、ACアダプター<別売り>を接続してお使いください)。

参照 P.57「オートパワーオフの設定」

マニュアルフォーカスについて

ボタンまたは ボタンを押すと、情報パネルにMFマークが表示され、手動でピントのみ調整できます。

- ・MFマークが表示中は、オートフォーカスは働きません。
- ・MFマークの表示を解除するときは、モニターボタンを押してモニタリング機能を終了します。

遠隔操作について

離れた位置や固定した位置にカメラを設定してお使いになるときは、リモートコントローラ(別売り)と組み合わせてお使いください。

マクロ撮影（接写）

被写体に近づいてクローズアップで撮影することをマクロ撮影といいます。

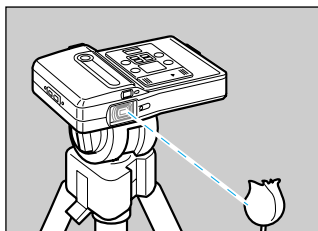
◀補足▶ ・被写体までの最短撮影距離は、約1cmです。

重要 ・ファインダーの視野と撮影される範囲が大きくなりますので、液晶モニターまたはテレビをカメラに接続して、撮影範囲を確認しながら撮影してください。

① 被写体に近づいて構図を決め、リリースボタンを押して撮影します。

重要 ・マクロ撮影ではピント合わせの範囲がせまいため、カメラが動くとピントが外れることがあります。カメラが動かないように、三脚などでしっかりとカメラを固定して撮影してください。

・モニタリング機能を使用すると、微妙なピント合わせができます。



コラム

リリースボタンについて
三脚などでカメラを固定したためリリースボタンが押しにくいときは、リモートコントローラー（別売り）を使用すると便利です。